

二〇二三年一〇月一日

孫四人車椅子押す敬老日	なつき
秋彼岸話はいつも昭和論	宏 虎
壱岐つつむ島の奥まで鰯雲	宏 虎
秋色を帯びしセコイヤ並木かな	はく子
赤とんぼ結界繩にひと並び	なつき
夕映がつつむ棚田の稲穂波	かかし
この土手の一番花の曼珠沙華	素 秀
田仕舞の案山子に礼す老夫婦	かかし
古戦場跡の広原虫時 雨	かかし
パノラマに六甲連山秋澄みぬ	わかば
曼珠沙華ジプシーせるは黒揚羽	む べ
こどもらのかくれんぼせる稲架襖	愛 正
里芋の広葉の露の玉光る	はく子
梵鐘の響く明日香路曼珠沙華	かかし
秋の浜ゆけば間遠に沖汽笛	わかば
野分跡また立ち直る千草あり	ぼんこ

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二三年一〇月二日